

COVID-19 の流行が日本の看護学生に与える影響

～多施設共同研究から見えてきたもの～

看護学部

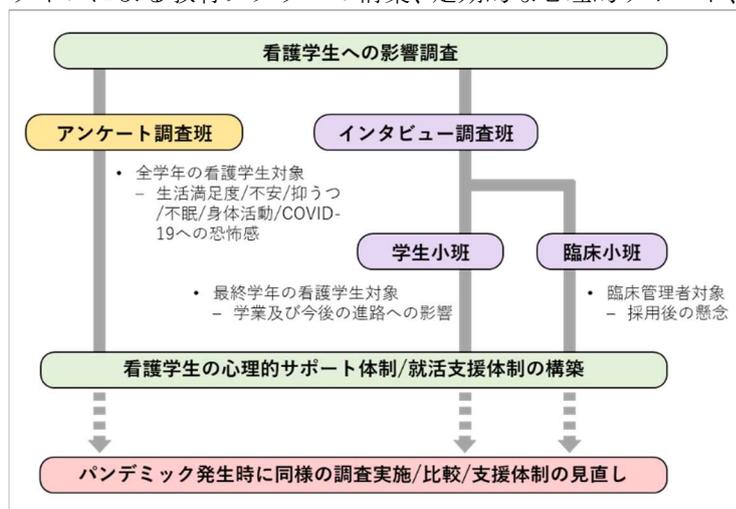
〇准教授 かこう じゅん
角甲 純

キーワード 看護学生, 新型コロナウイルス感染症, メンタルヘルス

研究概要

本研究では、COVID-19 の大規模な流行下における看護学生への適切な支援体制の構築を目指し、①メンタルヘルスの実態を評価するために看護学生へのアンケート調査、②学業および今後の進路への影響を検討するために最終年度の看護学生および臨床管理者へのインタビュー調査を行いました（図を参照）。まず、アンケート調査では、国内の看護系大学 8 校の学士課程に在籍する看護学生 1197 名の回答を分析しました。分析の結果、親戚や知人の COVID-19 感染経験がある者では不安症状のリスクが低く、肥満傾向の者は抑うつ症状と不眠症状のリスクが高く、経済状況が苦しくなった学生は抑うつのリスクが高いことが明らかとなりました。その他、生活満足度と COVID-19 への恐怖感、不安と抑うつ、不眠症状のリスクを高めることが明らかとなりました。このようなリスクを持つ学生のスクリーニングと重点的な支援の必要性が示唆されました。

次に、看護学生対象のインタビュー調査では、国内の看護系大学 3 校の学士課程に在籍し、就職活動を経験した 14 名の学生（最終学年）のデータを分析しました。分析の結果、看護学生への支援は、オンラインによる教育プログラムの構築、定期的な心理的サポート、就職に関する豊富な情報提供と相談窓口の



設置、教員からの定期的なフィードバックが、重要であることが示唆されました。また、COVID-19 流行下で新卒看護師の採用試験の担当経験のある 7 都府県 15 施設に勤務する 看護管理者にインタビュー調査を行いました。分析の結果、新卒看護師は学生時代の臨地実習の経験不足と感染対予防対策に伴う制限により精神的な負担を受けていることが明らかとなり、臨床実践の経験不足を補う教育と交流不足を補う心理的サポート体制の構築が重要であることが示唆されました。

アピールポイント

本研究結果は、COVID-19 流行下における国内の看護学生のメンタルヘルス等を調査した初めての研究になり、現在、研究結果の公開に向けて尽力しているところです。現在までの公開に向けた取り組み状況は以下になります。

①アンケート調査のプロトコル論文 (BMJ Open にて公開済)、②アンケート調査のサブ解析結果 (Asia Pacific Journal of Public Health にて公開済)、その他、アンケート調査本論文、看護学生対象インタビュー調査論文、臨床管理者対象インタビュー調査論文はそれぞれ、英文誌の査読中になります。また、12 月に広島県で開催予定の第 42 回日本看護科学学会学術集会では、各調査結果の演題登録と交流集会への登録を行っております。